

北海道離島におけるアリ類 (その2、礼文島編)

吉村正志

〒 097-0101 利尻富士町鶯泊字栄町

Ants from Islands in Hokkaido, Northern Japan (No.2, Rebun-Island)

Masashi Yoshimura

Sakae-machi, Osidomari, Rishirifuji-cho, Rishiri, Hokkaido, 097-0101 Japan

1. はじめに

昨年、筆者は「北海道離島におけるアリ類」の「その1」として利尻島におけるアリ類を調査した。

今年度は昨年に引き続き礼文島についてアリ相の調査を行ったので、その成果を「その2」として報告したい。

ここ礼文島において、1992年12月20日現在報告されているアリの種類は3亜科7属7亜属17種である(寺山, 1992)。そして今回の調査においてはこのうちの10種とそれに加えて新たに3種を確認することができた。

2. 方法

今回の採集は見付け取り法とビットホールトラップの2種類の方法を併用して行った。調査地はスコトン岬、ゴロタ岬、船泊、久種湖、鉄府、スカイ岬、礼文林道、元地、香深とその周辺とし、香深及び礼文林道においてはトラップによる採集を行った。

採集した標本は70%エタノールにより液浸標本とした後、乾燥標本とした。

なお、各方法についての詳細は昨年のもにも既に記載させていただいているため、この場では省略したい。

3. 結果

今回の調査によって採集され、同定された種は次の通りである。採集データは採集日、採集地、個体数(W:ワーカー、♀:雌アリ、♂:雄アリ)、採集者とした。

なお昨年利尻の調査で採集できた種に関しては、今回その解説を省略させていただく。昨年度の報告を参照していただければ幸いである。

アリ科 FORMICIDAE

フタフシアリ亜科 Myrmicinae

礼文島においては利尻島で発見された科に加え、カタアリ亜科が記録されている。しかし、腹柄節が2節であることが本亜科の特徴であるので、それによって他の種とは区別が可能である。

クシケアリ属 *Myrmica*

礼文島においてもフタフシアリ亜科の中では2属のみの発見にとどまっている。そのため、本島においてもその属は体長によって判断がほぼ可能である。本属は中型(3~5.5mm)。

(1) エゾクシケアリ

Myrmica jessensis Forel

7-viii-1997、香深、3 W、M. Yoshimura leg. ; 22-viii-1998、船泊、3 W、M. Yoshimura leg.

(2) シワクシケアリ

Myrmica kotokui Forel

2-vi-1997、香深、7W1 ♀、Mariko Yoshimura leg. ; 6-viii-1997、香深、3W5 ♀、M. Yoshimura leg. ; 7-viii-1997、香深、3W、M. Yoshimura leg. ; 7-viii-1997、香深、7W、M. Yoshimura leg. ; 7-viii-1997、香深、97W、M. Yoshimura leg. ; 7-viii-1997、香深、14W、M. Yoshimura leg. ; 7-viii-1997、礼文林道、12W、M. Yoshimura leg. ; 7-viii-1997、礼文林道、117W、M. Yoshimura leg. ; 29-v-1998、久種湖、6W、M. Yoshimura leg. ; 22-viii-1998、船泊、1W、M. Yoshimura leg.

(3) カドクシケアリ

Myrmica sp. 7

7-viii-1997、香深、5W、M. Yoshimura leg.

エゾクシケアリに似ているため、肉眼で区別することは難しい。触角の付け根の形態などで判断する。

(4) チャイロムネボソアリ

Leptothorax sp. 8

29-v-1998、久種湖、5W、M. Yoshimura leg.

ヤマアリ亜科 Formicinae

腹部末端が丸く開口しているのが大きな特徴。

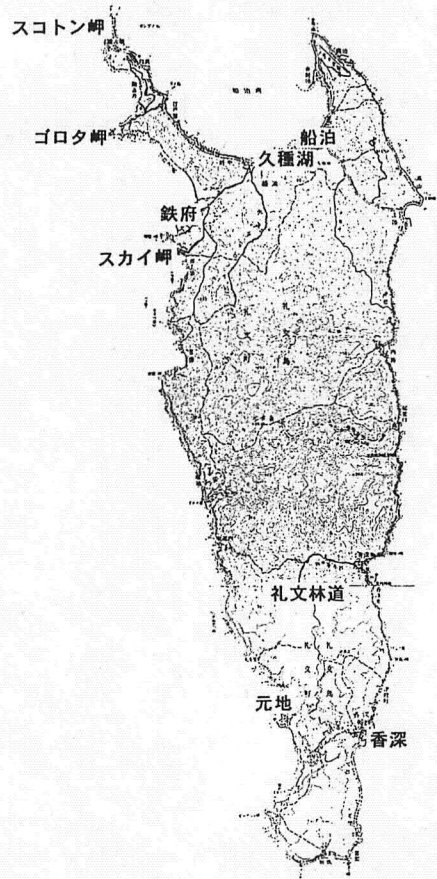


図1：主な採集地

ムネボソアリ属 *Leptothorax*

体長が2～3.5mm とクシケアリ属に比べてかなり小さいことでだいたい見分けることができる。触覚こん棒部が3節よりなることも大きな特徴。

ケアリ属 *Lasius*

前伸腹節の気門が円形であることや、複眼の位置が頭部側面後方に位置すること、大顎の歯が7本以上あることなどで判断するが、肉眼での判断は難しい。ただ、利尻島同様礼文島のヤマアリの中でも小型の部類に入るのでそれで判断した方が確実である。

ケアリ亜属 *Lasius* s.str.

検索のキーが触覚柄節の立毛の本数などのため、非常に同定が困難な属。体色や腹柄節の形などを参考に今回も同定を行った。

(5) ヒメトビイロケアリ

Lasius (Lasius) alienus (Foerster)

7-v-1997、香深、1W、M. Yoshimura leg. ; 29-v-1998、久種湖、2W、M. Yoshimura leg. ; 22-viii-1998、船泊、5W、M. Yoshimura leg.

トビイロケアリに比べてかなり小型という印象であるが、トビイロケアリの小型の個体とはほとんど見分けがつかない。

しいて言えば触角柄節の立毛が少ないこと、前脚けい節の外側に立毛がほとんどないことが特徴となる。

(6) トビイロケアリ

Lasius (Lasius) japonicus Santschi

20-iv-1997、礼文林道、13W、M. Yoshimura leg. ; 20-iv-1997、礼文林道、5W、M. Yoshimura leg. ; 16-v-1997、スカイ岬、6W、M. Yoshimura leg. ; 16-v-1997、スカイ岬、27W、M. Yoshimura leg. ; 16-v-1997、スコトン岬、25W、M. Yoshimura leg. ; 16-v-1997、スコトン岬、4W、M. Yoshimura leg. ; 2-vi-1997、香深、1W、Mariko Yoshimura leg. ; 7-viii-1997、香深、40W、M. Yoshimura leg. ; 7-viii-1997、香深、700W、M. Yoshimura leg. ; 7-viii-1997、香深、230W、M. Yoshimura leg. ; 29-v-1998、久種湖、9W、M. Yoshimura leg. ; 30-v-1998、ゴロタ岬、15W、M. Yoshimura leg.

キイロケアリ亜属 *Cautolasius*

(7) キイロケアリ

Lasius (Cautolasius) flavus (Fabricius)

20-iv-1997、礼文林道、4W、M. Yoshimura leg. ; 20-iv-1997、礼文林道、8W、M. Yoshimura leg. ; 17-v-1997、元地、19W、M. Yoshimura leg. ; 6-viii-1997、17W、香深、M. Yoshimura leg. ; 22-viii-1998、船泊、5W、M. Yoshimura leg.

体色が明らかに黄色い。このことから他の種とは

区別できる。本種同様体色が黄色いアメイロケアリも礼文島には生息するが、本種はより小型である。

アメイロケアリ亜属 *Chthonolasius*

体色はキイロケアリによく似ているが、体長がキイロケアリに比べると一回り大きい。また、腹柄節の気門の位置が低いことでキイロケアリと区別される。

(8) アメイロケアリ

Lasius (Chthonolasius) umbratus (Nylander)

17-v-1997、元地、4W、M. Yoshimura leg.

キイロケアリと比べると見た目にも大型であることが分かる。キイロケアリ亜属の仲間と共に地中活動性であるため、地表で活動しているのを見るのは希である。

クサアリ亜属 *Dendrolasius*

体全体が漆黒の光沢を持っていることと、頭部が大きく全体的に丸みを帯びたような印象を受けることで他の仲間との区別ができる。

主に林床で見ることができる。

(9) クロクサアリ

Lasius (Dendrolasius) fuliginosus (Latreille)

29-v-1998、久種湖、4W、M. Yoshimura leg.

クサアリ亜属の特徴である体色と体型に加え、手でもむとフルーツのような香りがすることから他の種とは容易に区別することができる。

今回の調査では久種湖畔でのみの発見となっているが、森林内であれば他の場所での生息も期待できる。

アメイロアリ属 *Paratrechina*

(10) アメイロアリ

Paratrechina flavipes (Fr. Smith)

表1：礼文島で発見されたアリ類

和名	学名	スコトン脚	ゴロタ脚	鉄府	久種湖	船泊	スカイ岬	礼文林道	元地	香深	寺山 1992
エゾクシケアリ	<i>Myrmica jessensis</i> Forel					●				●	○
シワクシケアリ	<i>M. kotokui</i> Forel				●	●		●		●	○
カドクシケアリ	<i>M. sp. 7</i>									●	
タカネムネボソアリ	<i>Leptothorax acervorum</i> (Fabricius)										○
ムネボソアリ	<i>L. congruus</i> (Fr. Smith)										○
チャイロムネボソアリ	<i>L. sp. 8</i>				●						○
シベリアカタアリ	<i>Dolichoderus sibiricus</i> (Emery)										○
アメイロアリ	<i>Paratrechina flavipes</i> (Fr. Smith)								●		○
ヒメトビイロケアリ	<i>Lasius (Lasius) alienus</i> (Foerster)				●	●				●	
ハヤシケアリ	<i>L. (L.) hayashi</i> Yamauchi & Hayashida										○
トビイロケアリ	<i>L. (L.) japonicus</i> Santschi	●	●		●		●	●		●	○
キイロケアリ	<i>L. (Cautolasius) flavus</i> (Fabricius)					●		●	●	●	○
アメイロケアリ	<i>L. (Chthonolasius) umbratus</i> (Nylander)								●		○
クロクサアリ	<i>L. (Dendrolasius) fuliginosus</i> (Latreille)				●						○
クサアリモドキ	<i>L. (D.) spathepus</i> Wheeler										○
ケズネアカヤマアリ	<i>Formica (Formica) truncorum</i> Fabricius			●							○
クロヤマアリ	<i>F. (Serviformica) japonica</i> Motschulsky										○
ヤマクロヤマアリ	<i>F. (S.) lemani</i> Bondroit					●					○
ツヤクロヤマアリ	<i>F. (S.) transcaucasica</i> Nasonov	●			●			●			
ムネアカオオアリ	<i>Camponotus (Camponotus) obscuripes</i> Mayr										○

17-v-1997、元地、6W1 ♀、M. Yoshimura leg. ; 17-v-1997、元地、62W6 ♀、M. Yoshimura leg.

体が小さい上、頭部と腹部が黒褐色、胸部と脚は黄色から黄褐色と本島に生息する他のアリとは異なる体色であるため、他の種とは容易に区別することができる。

今回の調査においては元地のみからの採集となっている。

ヤマアリ属 *Formica*

前伸腹節の気門が楕円形であることが最大の特徴

であり、これによって他の属との区別ができる。

ヤマアリ亜属 *Formica* s.str.

(11) ケズネアカヤマアリ

Formica (Formica) truncorm Fabricius

30-v-1998、鉄府、9W、M. Yoshimura leg.

体長4.5～7mmで、大型の上、敏捷で腹部が黒く他の部分が赤いため礼文島においても他の種と容易に区別できる。

クロヤマアリ亜属 *Serviformica*

(12) ヤマクロヤマアリ

Formica (Serviformica) lemani Bondroit

22-viii-1998、船泊、2W、M. Yoshimura leg.

(13) ツヤクロヤマアリ

Formica (Serviformica) transkaucasica Nasonov20-iv-1997、礼文林道、2W、M. Yoshimura leg. ;
20-iv-1997、礼文林道、6W、M. Yoshimura leg. ; 16-
v-1997、スコトン岬、1W、M. Yoshimura leg. ;
23-viii-1998、久種湖、8W、M. Yoshimura leg.

体長4~5.5mm。軟毛がないため体全体に強い光沢があり、そのため屋外でもその他のクロヤマアリ亜属の種とは用意に区別することができる。礼文にはむしろ他の種よりもこの種が優位のように、明らかに利尻の分布とは異なるようである。

4. 考察

今回の礼文島においての調査では報告されている種のうち10種、それに加えてカドクシケアリ *Myrmica* sp. 7、ヒメトビイロケアリ *Lasius (Lasius) alienus* (Foerster)、ツヤクロヤマアリ *Formica (Serviformica) transkaucasica* Nasonov の3種を新たに加えることができた。これにより、礼文島において確認された種は全部で3亜科7属7亜属20種ということになった。

今回の調査ではその採集方法がトラップ及び見付け取り法にとどまってしまったために、朽ち木や枯れ枝中を営巣場所とするシベリアカタアリ *Dolichoderus sibiricus* (Emery) は採集することができなかった。また、採集場所に関しても海岸沿いを中心としたため、林床でよく目にすることができるムネアカオオアリ *Camponotus (Camponotus) obscuripes* Mayr などの種も今回は発見できなかった。

この先よりきめの細かい調査を行うことにより、これらの種の分布も明らかになると考えられる。

5. 謝辞

今回の報告作成にあたり、アリの採集方法や標本の保存方法、同定方法について帯広畜産大学畜産環境科学科生態系保護学講座の小野山敬一先生に多大なご指導をいただいた。また、礼文島の採集においては礼文島在住の写真家、宮本誠一郎・柚田美野里両氏に大変お世話になった。さらに昨年に引き続き、利尻町立博物館学芸員の佐藤雅彦氏には調査においての様々なお心遣いをいただいた。これらの方々及び本報告を作成するにあたってお世話になったすべての方々に、この場を借りて深く感謝申し上げます。

6. 引用文献

- 寺山 守、1992. 東アジアにおけるアリの群集構造
1. 地域性および種多様性. 13,15-26
日本蟻類研究会編、1989.. 日本産アリ類の検索と解説 (I) ハリアリ亜科、クビレハリアリ亜科、クシフタフシアリ亜科、サスライアリ亜科、ムカシアリ亜科. pp42
日本蟻類研究会編、1991. 日本産アリ類の検索と解説 (II) カタアリ亜科、ヤマアリ亜科. pp56
日本蟻類研究会編、1992. 日本産アリ類の検索と解説 (III) フタフシアリ亜科、ムカシアリ亜科 (補追). pp94
日本蟻類研究会 (アリ類データベース作成グループ)、1998. 日本産アリ類カラー画像データベース (CD-ROM)

訂正

利尻町立博物館年報第17号に記載した「北海道離島におけるアリ類 (その1、利尻島編)」中に誤った記載があった。表2のように訂正する。

表 2

ページ及びその箇所	誤	正	
p.34	クシケアリ属	<i>Myrmica</i> LATREILLE	<i>Myrmica</i> LATREILLE
	クシケアリ属説明文中	前伸腹刺	前伸腹節刺
	(1) エゾクシケアリ	<i>Myrmica lobicornis jessnsis</i> Forel, 1901	<i>Myrmica jessensis</i> Forel
	(2) シワクシケアリ	<i>Myrmica ruginodis</i> var. <i>kotokui</i> Forel, 1911	<i>Myrmica kotokui</i> Forel
	ムネボソアリ属	<i>Leptothorax</i> MAYRE	<i>Leptothorax</i> MAYR
p.35	(4) タカネムネボソアリ	<i>Leptothorax acervorum</i> ; Mayre, 1855	<i>Leptothorax acervorum</i> (Fabricius)
p.36	ケアリ亜属	<i>Lasius</i> S.STR	<i>Lasius</i> s.str.
	(7) トビイロケアリ	<i>Lasius niger</i> ; Fabricius, 1805	<i>Lasius (Lasius) japonicus</i> Santschi
	(12) ツヤクロヤマアリ	<i>Formica transcaucasica</i> Nasonov, 1889	クロクサアリ <i>Lasius (Dendrolasius) fuliginosus</i> (Latreille)
p.37 表 1	シワクシケアリ	<i>Myrmica ruginodis</i> var. <i>kotokui</i> Forel, 1911	<i>Myrmica kotokui</i> Forel
	タカネムネボソアリ	<i>Leptothorax acervorum</i> ; Mayre, 1855	<i>Leptothorax acervorum</i> (Fabricius)
	ハリナガムネボソアリ	<i>Leptothorax congruus</i> var. <i>spinosior</i> Forel, 1901	<i>Leptothorax spinosior</i> Forel
	アメイロアリ	<i>Prenolepis flavipes</i> ; Mayr, 1886	<i>Paratrechina flavipes</i> (Fr. Smith)
	トビイロケアリ	<i>Lasius niger</i> ; Fabricius, 1805	<i>Lasius (Lasius) japonicus</i> Santschi
	キイロケアリ	<i>Lasius flavus</i> ; Mayr, 1861	<i>Lasius (Cautolasius) flavus</i> (Fabricius)
	アメイロケアリ	<i>Lasius umbratus</i> ; Mayr, 1861	<i>Lasius (Chthonolasius) umbratus</i> (Nylander)
	クロヤマアリ	<i>Formica fusca</i> var. <i>japonica</i> ; Emery, 1909	<i>Formica (Serviformica) japonica</i> Motschulsky
	ムネアカオオアリ	<i>Camponotus ligniperdus</i> var. <i>obscuripes</i> Mayr, 1878	<i>Camponotus (Camponotus) obscuripes</i> Mayr
p.38	オオアリ亜属	<i>Camponotus</i> S.STR.	<i>Camponotus</i> s.str.
	(13) ムネアカオオアリ	<i>Camponotus ligniperdus</i> var. <i>obscurips</i> Mayr, 1878	<i>Camponotus (Camponotus) obscuripes</i> Mayr